

南台湾訪問記

～八田與一氏の足跡を訪ねて～



2025年4月23日

アジア研究会 玉上佳彦



今回の私の行程（3泊4日）

3月12日 成田空港 ⇒ 高雄空港 → 高雄市内散策

3月13日 高雄駅 → 台南駅 → 台南市内散策

3月14日 台南駅 → 隆田駅 → **八田與一記念公園** → 台南駅

3月15日 台南駅 → 沙崙（高鉄台南駅）→ 高鉄桃園駅 → 桃園空港

桃園空港 ⇒ 成田空港

今回の旅行の目的

台湾人にとって最も有名な日本人「**八田與一**」氏（水利技術者）の足跡を訪ねる。

彼が建設した農業用灌漑ダム「**烏山頭ダム**」の見学と周辺の記念公園の散策

中国からの**台湾有事**に関する状況確認

八田與一（1886～1942）氏の概要

日本統治時代の台湾で、水利事業に尽力した日本人土木技師で、「**台湾の水利の父**」と呼ばれ、特に烏山頭ダムと嘉南大圳の建設により、台湾農業の発展に大きな功績を残した人。

台湾の教科書で「**日台協力の象徴**」として紹介されている。

背景：当時の台湾南部（嘉南平原）は干ばつと洪水が繰り返される不毛地帯

⇒ 烏山頭ダム（13平方km 当時では東洋最大規模）

嘉南大圳（全長16,000kmの水路網）

⇒ 15万haの農地で米・サトウキビ生産

半水成式ダム、現地住民・技師を平等に扱い、共同作業を推進

人物像：

金沢市出身、東京帝大土木工学科卒業後、台湾総督府に勤務。

- ・信念：「**技術は人々の生活を豊かにするためにある**」
- ・1942年フィリピンに向かう船で米軍の攻撃で殉職（56歳）
- ・妻 外代樹は台湾に残り、現地社会に貢献。敗戦後烏山頭放水路に入水（45歳）

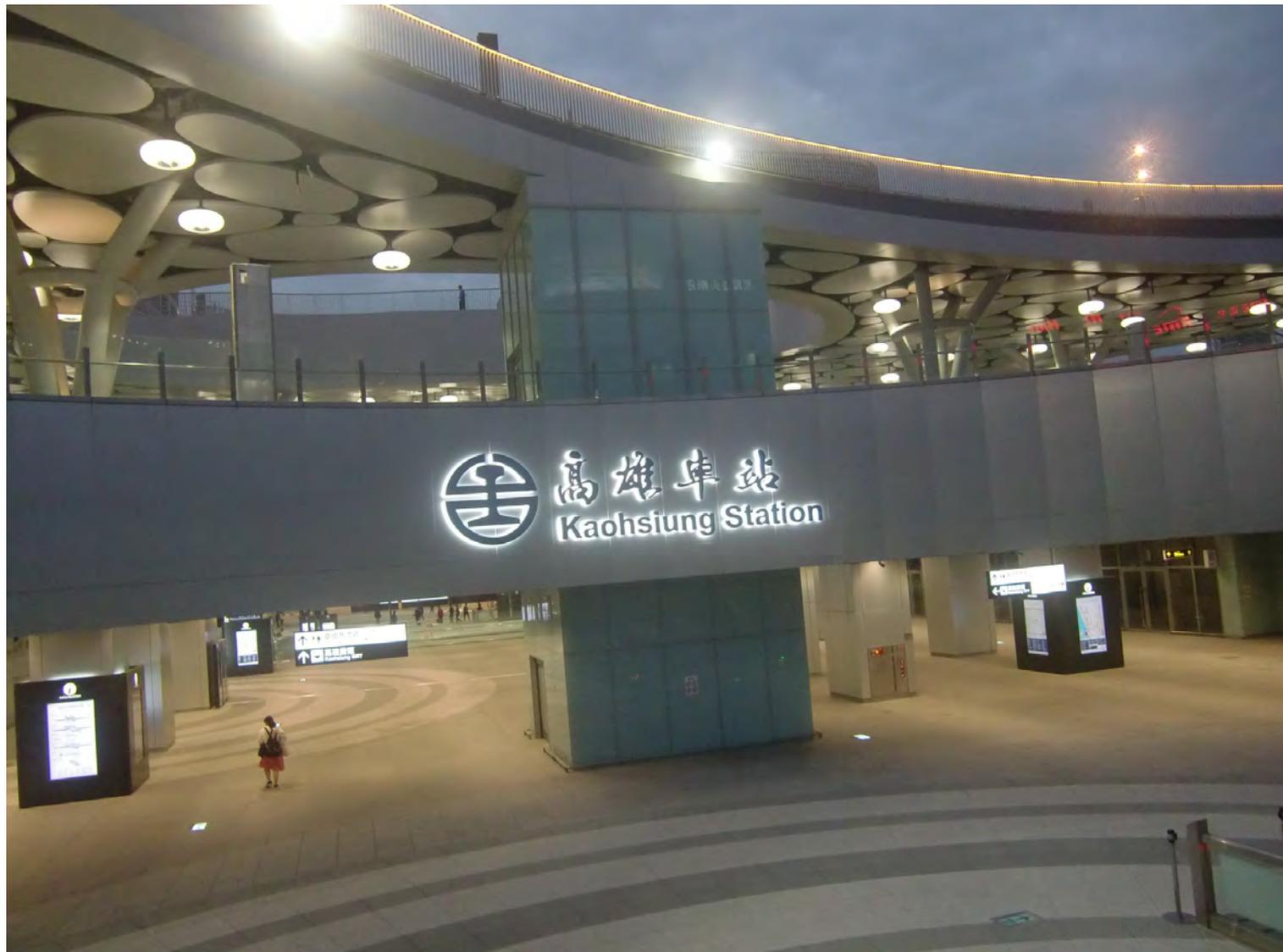
「**千里はるばる水路を拓く**」



台湾 基本情報

- 人口： 2,359万人（2019年）
- 人口密度： 650人
（日本336人、中国143人、韓国506人）
- 民族構成
 - 本省人: 福佬（ホーロー）人 73.5%
（明清代に移住、主に福建人）
 - 外省人： 7.5% **〔戦後中国から移住〕**
 - 客家人： 17.5%（清朝に移住、主に広東人）
〔戦前から台湾居住〕
 - 先住民族： 1.5%

高雄駅構内



高雄駅構内



工事中の高雄駅外観



高雄市内



高雄駅周辺



高雄市内LRT



工事中の高雄市内



高雄港近辺音楽劇場



高雄港LRT



台鐵高雄駅（在來線）



台鐵在來線特急



台鐵台南駅



台南駅構内売店



台南市隆田駅



隆田駅前



烏山頭水庫觀光略圖



虹の吊橋





烏山頭水庫



遊覧船乗り場



台湾南部放浪中の玉ちゃん



烏山頭水庫 (ダム)



烏山頭案内図



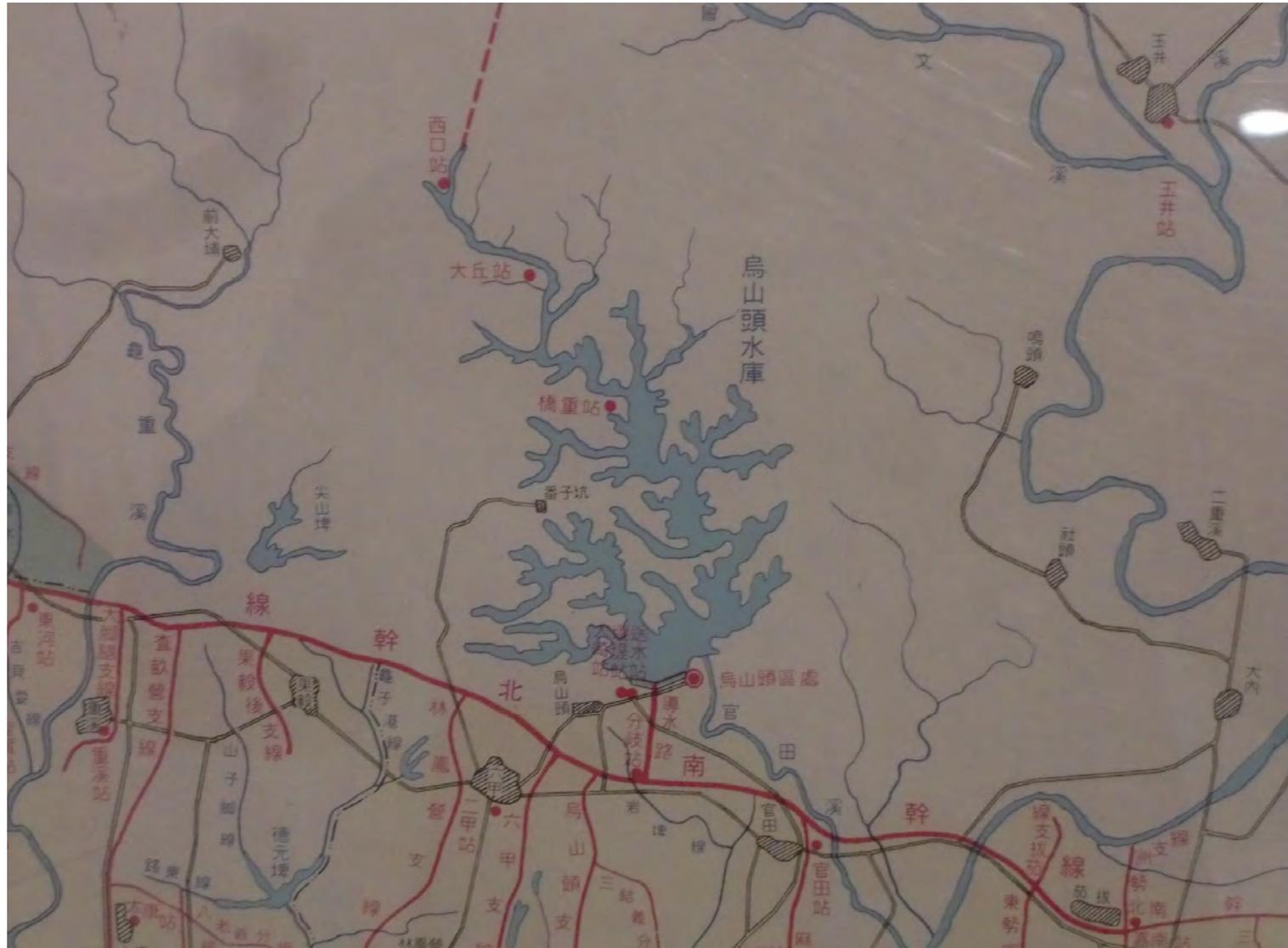
烏山頭案内図



八田技師記念室



烏山頭地圖



水力發電廠



八田水力發電廠



八田與一銅像





八田與一記念園區（放し飼いの怖い犬）



水田地帯



台南市内



台南駅台鉄特急



高铁（新幹線）台南駅



高鉄（新幹線）台南駅



高鉄車内（日本と同じ）



台北桃園空港



高雄市内六合觀光夜市



高雄市内六合觀光夜市



高雄市内六合觀光夜市



高雄市内六合觀光夜市



高雄市内六合觀光夜市



高雄市内六合觀光夜市



高雄市内六合觀光夜市



台南市內大觀音亭



台湾有事の問題

防空非難標識



台湾有事の問題

防空非難標識



シェルター 10万個所以上

8,665万人収容可能

(=人口2,350万人の約4倍)



The image shows a yellow sign with Japanese text and a table. The title of the sign is '防空避難設備' (Air Defense Shelter Facilities). The table lists the number of shelters and their capacity. At the bottom of the sign, it says '国土交通省 国土院' (Ministry of Land, Infrastructure and Transport,国土院).

防空避難設備	
施設数	総数地下施設
16500	人
1000	人
15500	人
国土交通省 国土院	

台湾の中台統一に関する意識調査

現状維持：	28.6%
現状維持、将来再判断	28.3%
現状維持し、独立をめざす	25.2%
今すぐ独立	5.1%
今すぐ統一	1.3%

(出典：Business Insider 22年10月)

ご静聴ありがとうございました

